

告示	番号	54	悪性新生物
	疾病名	松果体腫	

松果体腫

しょうかたいしゅ

概要・定義

松果体細胞に類似した細胞からなる腫瘍で、松果体細胞ロゼットを伴うものと大小の神経細胞が混在する多形成を示すものがある。生物学的に良性の腫瘍（WHO グレード I）である。松果体から発生する未熟な悪性の腫瘍は松果体芽腫で、小型の未分化な細胞の充実性増殖からなり、周囲への浸潤、髄液播種をきたしやすく、WHO グレード IV と悪性度が高い。

症状

松果体部に発生するので中脳背側の圧排による眼球運動障害があるが、胚細胞腫瘍ほど高率ではない。中脳水道狭窄による水頭症をきたしやすい。

治療

松果体腫でも松果体芽腫でも腫瘍の摘出が第一選択である。松果体腫は良性腫瘍と言われるが、摘出後に残存腫瘍を認めれば再発しやすいので、全摘出できない場合は術後の放射線治療が薦められる。松果体芽腫では、摘出後に放射線治療を行った平均生存期間は 30 か月であるが、播種を認めない例では 2 年以上である。抗がん剤治療として、シクロフォスファミドあるいはブスルファンの大量投与で 4 年非再発生存率 69%、シクロフォスファミドやメソトレキセートを中心に化学療法を行い、3 歳以上で放射線治療を追加し平均生存期間が 7.9 年と化学療法の有効性が示唆されている。

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/1_6_78.html